

「座標」

TOKYO ATLAS関連企画：東京都による支援作家たちの現在地

目次

1. TOKYO ATLAS関連企画「座標」開催概要	1
2. 体制（企画者紹介／TOKASとは／アートマネジメント人材とは）	2
3. 第一弾アーティスト発表	4
4. 国際美術展「TOKYO ATLAS」開催概要	8

1. TOKYO ATLAS関連企画「座標」開催概要

東京都及び東京国際文化芸術祭実行委員会が主催する、国際美術展「TOKYO ATLAS」は、国際的な文化の潮流が交錯する都市、東京ならではのアートを媒介とした多様な価値観との出会いや交流が生まれるプラットフォームの創出を目指して開催されます。

本展「座標」は、国際美術展「TOKYO ATLAS」の関連企画として開催します。アートの世界における才能を発見し、その活躍を支援するプラットフォームの取組として、国際的な舞台において新進気鋭の作家とキュレーターを幅広い層の観客に向けて紹介することを目的に、天王洲のWHAT MUSEUMにて開催する展覧会です。

「座標」

東京都がこれまで支援してきたアーティストやキュレーターの現在地を繋ぐように展開される本展は「座標」というタイトルを冠しています。

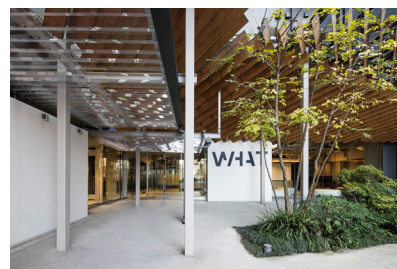
公益財団法人東京都歴史文化財団がこれまでに支援してきたアーティスト、キュレーター、マネジメント人材のなかから選出されたアートの担い手がそれぞれの活動を異なる視座から見つめなおし、新たな座標として結ぶことを目指します。

- 【名称】 「座標」(英題：Coordinates)
- 【会期】 2026年10月10日(土)～12月20日(日) [72日間]
- 【会場】 WHAT MUSEUM
140-0002 東京都品川区東品川2丁目6-10 寺田倉庫 G号
※入場無料予定
- 【主催】 東京都、東京国際文化芸術祭実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団
- 【チーム体制】 1F | 企画：岩田智哉(キュレーター)
木村こころ、エリカ・ドレスクラー(アソシエイトキュレーター)
2F | 企画：トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)
近藤由紀、大島彩子、中川千恵子
プロジェクト・マネジメント：三木茜、池澤加那、見目はる香

WHAT MUSEUM

寺田倉庫が運営する、倉庫空間を現代アートや建築との出会いの場へと昇華させた、倉庫会社ならではのミュージアム。

倉庫内で静かに光を放つ文化的価値を暗示した、WHAT (WareHouse of Art Terrada) の名のもとに平面や立体のアート作品をはじめ、建築模型、写真、映像、文学、インスタレーションの数々を展示しています。寺田倉庫が作家やコレクターからお預かりしている作品も紹介することで、作品の保管、展示、交流の場を繋ぎ、さらに天王洲という国際的なアートシティのハブとして、地域のアートコミュニティの核となり、倉庫空間から世界へ芸術文化を発信しています。



寺田倉庫からのメッセージ

寺田倉庫は、長年にわたり美術品をお預かりするなかで、単に「モノ」を保管するだけでなく、その作品が持つ芸術性や希少性、そして作り手の想いを含めた「価値」そのものを守り、未来へつないでいくことを大切にしてきました。WHAT MUSEUMは、そうした保管・保存の専門性と考え方を土台に、現代アートや建築など多様な表現と出会う機会を社会にひらいていく場です。

また、WHAT MUSEUMでの活動に加え、アワードの開催や倉庫空間を活用したアトリエの提供など、アーティスト支援にも取り組んできました。東京から生まれる新たな表現や視点を広く届けていこうとする本展の趣旨は、そうした私たちの歩みとも深く重なります。若手アーティストやキュレーター、アートマネジメント人材が、この場を通じて多くの人と出会い、次の挑戦へと歩みを進めていくことを期待しています。今後も、アートと人、街がつながる場を育みながら、これからの文化を担う才能を支えてまいります。

2. 体制（企画者紹介／TOKASとは／アートマネジメント人材とは）

「座標」は、東京都がこれまで支援してきた、さまざまな分野のアーティストやキュレーター、アートマネジメント人材の現在地を示すことを目指し展開します。

1F展示

将来アーティストと社会をつなぐ役割を担うアートマネジメント人材等を短期で芸術フェスティバルなどに派遣し、国際的な活動の第一歩となるよう、海外の芸術文化関係者とのネットワークをつくる機会を提供するアートマネジメント人材等海外派遣プログラムを経験したキュレーターを中心に企画。

岩田智哉（キュレーター）

木村こころ（アソシエイトキュレーター）

エリカ・ドレスクラー（アソシエイトキュレーター）

2F展示

国内外の幅広いジャンルのアーティストやクリエイターの活動や実験的な試みを継続的に支援してきたトーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）が、TOKASやアーツカウンシル東京のプログラムに参加経験のあるアーティストによる展覧会を構成。

近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース、プログラムディレクター）

大島彩子（トーキョーアーツアンドスペース、学芸員）

中川千恵子（トーキョーアーツアンドスペース、学芸員）

プロジェクト・マネジメント

三木茜

池澤加那

見目はる香

トーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）

公益財団法人東京都歴史文化財団が運営するTOKASは2001年に開館し、展覧会、公演、レジデンス・プログラムなど多岐にわたる活動を行ってきました。TOKAS本郷では、若手アーティストを個展形式で紹介する「TOKAS-Emerging」、国際的なキュレーターや文化機関と協働する「TOKAS Project」、ジャンルを問わず実験的な企画を実施する企画公募「OPEN SITE」といった展覧会事業を実施し、墨田区両国エリアに構えるTOKASレジデンスでは、各国のアーティストが滞在制作を行うレジデンス・プログラムを運営しています。

また、2018年より東京都と創設した現代美術賞「Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)」を実施し、海外での活動に意欲をもつ中堅アーティストを対象に複数年に渡る継続的な活動支援を行っています。



アートマネジメント人材等海外派遣プログラム

芸術文化で躍動する都市・東京を目指し、2023年から開始。公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京が、アーティストと社会をつなぐ若手アートマネジメント人材を短期で芸術フェスティバル等に派遣し、国際的な活動の第一歩となるよう海外の芸術文化関係者とのネットワークを作る機会を提供します。海外の先駆的な作品や創作現場に直接触れることで、国際的な視点に立った創作の機運醸成を図るとともに、将来的には本事業を通じて東京と各派遣先・海外セクターとのネットワーク構築・強化につなげます。2023年・2024年は3カ国、2025年は5カ国へ派遣しました。



岩田智哉 IWATA Tomoya

キュレーター／The 5th Floorディレクター

1995年愛知県生まれ。東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科修了。アジア各地のオルタナティブ・スペースを訪れ、それぞれのローカルのアートシーンにおけるオルタナティブとインスティテューションのダイナミズムについてのリサーチを行う。また自身もそのようなスペースを運営する実践者として、展覧会に限らない広義のキュラトリアル実践を通して、既存のシステムに対するオルタナティブの可能性を模索する。2022年4月より、キュラトリアル・スペースThe 5th Floorのディレクターを務める。

近年の主なキュレーションに、「Obol」[アンドリウス・アルチュニアン個展] (Hermès Maison Ginza Le Forum、東京、2026)、「Deep in the Sway」(The 5th Floor、東京、2026)、「Reverse Cabinet」(Kiaf[Special Exhibition]、ソウル、2025)、「さかむきの砂」(kudan house、東京、2025)、「ANNUAL BRAKE」シリーズ (The 5th Floor、東京、2022、2023、2024) など。

2024年度アートマネジメント人材等海外派遣プログラム (第60回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展派遣) 参加。



Photo by Linda BUJOLI

木村こころ KIMURA Kokoro

キュレーター

2000年山形県生まれ。オランダ・ユトレヒト大学大学院 Arts and Society 修士課程修了。フェミニズム／クィアの視点と脱植民地主義的な言説の交差点に関心を持ち、展覧会を通じて、アイデンティティや自己関係の変容可能性を探索している。また、インドネシア・ジョグジャカルタ Cemeti: Institute for Art and Society にてリサーチインターンシップを経験し、現地コレクティブとの協働プログラムを継続的に企画するなど、インドネシアを中心とする東南アジアのアートシーンの歴史と展開を実践的に探っている。

近年のキュレーションに、「Regarding the Unlocatable Others - 薄暮沁みる皮膚にまぶたの流転」(The 5th floor、東京、2025)、「Art Collaboration Kyoto Public Program 2025」(国立京都国際会館、京都、2025、マーティン・ゲルマン氏との共同キュレーション)、「PROCESS IN PROGRESS: RIKU EIMURA × RYOHEI SHIMADA」(Ruang MES56、ジョグジャカルタ、インドネシア、2025) など。

2025年度アートマネジメント人材等海外派遣プログラム (サンパウロ・ビエンナーレ派遣) 参加。



Photo by YOSHIDA Haruma

三木茜 MIKI Akane

アートマネージャー

1989年生まれ。武蔵野美術大学卒業後、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジMFAキュレーティング修了。「アートフェア東京」、アートアワードの運営を経て「あいちトリエンナーレ2019」に国際現代美術展アシスタント・キュレーターとして従事。2020-22年、六本木のアートスペース ANB Tokyoにて展覧会企画・運営等に携わり、2023年よりフリーランス。戸田建設「ART POWER KYOBASHI」パブリックアートプログラム vol.1 コーディネーター。株式会社ヘラルボニー「HERALBONY Art Prize」事務局、大丸松坂屋百貨店アーティスト支援プログラム「Ladder Project」、T3 NEW TALENT、文化庁採択事業等、文化芸術を支える様々なバックオフィスに関わる。

2024年度アートマネジメント人材等海外派遣プログラム (第60回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展派遣) 参加。



Photo by YAMAMOTO Hana

本展に於いて岩田・木村は1F企画にそれぞれキュレーター、アソシエイトキュレーターとして参画、三木は全体のプロジェクト・マネジメントに従事する。

3. 第一弾アーティスト発表

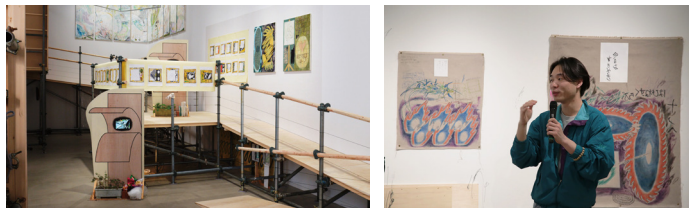
2F TOKAS展示

ちえんしげ CHEN Shige

1993年台湾生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻先端芸術表現研究領域博士後期課程。現在、茨城県を拠点に活動を行う。絵画表現と記述表現を主軸に、両者をめぐる配置方法や境界、共存、乖離を遊びながら、その延長線上にある圧縮された（おトクな）視覚像や複言語社会、ディスコミュニケーション、特定の意味を持たない書写（アセミツクライティング）などへのアプローチを思い巡らせる。最近では紙に書かれる造形表現や複言語マンガの記述方法に関心を寄せている。

近年の主な展覧会に、「構文；虚言；註と層と像」（SPACE NOBORU、東京、2025）、「群馬青年ビエンナーレ2025」（群馬県立近代美術館）などがある。

「TOKAS-Emerging 2023:『玄関をDumplingするには漂流なり』」（トーキョーアーツアンドスペース本郷、東京）参加。



作品「バグスクール2024：野生の都市」（アートセンター BUG、2024）での展示風景 Photo by 山本康平

播磨みどり HARIMA Midori

1976年神奈川県生まれ。2000年女子美術大学芸術学部美術学科版画コース卒業。現在、神奈川県を拠点に活動を行う。印刷メディアにおける自身の経験を起点に制作を行い、白黒コピーによる紙の立体作品をはじめ、近年は、版画・写真・映像などのアナログ複製メディアを使って、作品と制作行為における作者を脱中心化する方法を探っている。

近年の主な展覧会に、「修復の練習」（The Terminal KYOTO、京都、2025）、「場と印刷」（Maho Kubota Gallery、東京、2023）、「This is A Mirror」（The Shirley Fiterman Art Center、ニューヨーク、2023）などがある。

二国間交流事業プログラム派遣（ソウル）（トーキョーワンダーサイト、2015）参加。



作品「《This is a Mirror, After Camnitzer》2022

小林椋 KOBAYASHI Muku

1992年東京都生まれ。2019年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。現在、埼玉県を拠点に活動を行う。ものの「動き」を起点にしながら、不和のようなものを発生させる装置を組み立てたり、そうした仕組みをほかの事物と類推させたりすることで生まれる飛躍を観察しながら、彫刻やインスタレーション作品を制作する。時里充との演奏ユニット「正直」としても活動中。

近年の主な展覧会に、「且ん凡人目ん、あと皿」（GASBON METABOLISM、山梨、2025）、「Everyday Enchantment 日常の再魔術化」（CHANEL NEXUS HALL、東京、2024）などがある。

「OPEN SITE 7：『亀はニエフスのイユウのように前足を石にのぼすと』」（トーキョーアーツアンドスペース本郷、2022）、「TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL Vol.9：『ヨコとか下とか』」（トーキョーワンダーサイト、2014）参加。



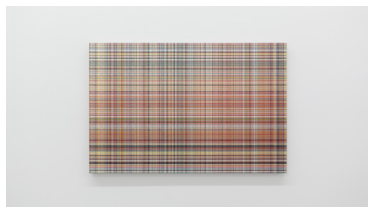
作品「《にこげの二枚貝の盤面》2024

黒田恭章 KURODA Yasuaki

1986年新潟県出身。2012年武蔵野美術大学大学院造形研究科デザイン専攻工芸工業デザインコース修了。現在、神奈川県を拠点に活動を行う。糸と言葉の關係に着想を得て、草木染めの絹糸を一本ずつ選び織物を制作する。数千から数万回の選択の集積として織物は形成され、そこには作者だけでなく、蚕や草木、土や水など多様な存在の歴史と關係性が織り込まれている。織る行為をとおして、人と世界の相互的な生成を考える。

近年の主な展覧会に、「COUNTERPOINT」(drj art projects、ベルリン、2025)、「COLOUR FIELD ON FIELD」(Galerie Robertson Arès、モントリオール、カナダ、2024)、「『見る』をほどく」(ANAインターコンチネンタルホテル東京、2024) などがある。

Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP) (アーツカウンシル東京、2025)、「TWS-Emerging 2017:『contextile』」(トーキョーワンダーサイト本郷) 参加。



作品 |《全ての他者たち》2026

野村在 NOMURA Zai

1979年兵庫県生まれ。2013年武蔵野美術大学博士課程修了。現在、ニューヨーク、東京都、兵庫県を拠点に活動を行う。野村は、存在と記憶の關係を軸に、写真・彫刻・装置、時にパフォーマンスも用いながら、肉体を含む物質の消失や記憶の変容を探究する。日常の微細な痕跡を作品化し、物質や時間の揺らぎを可視化することで、存在のあり方や本質を暴露することを試みる。

近年の主な展覧会に、「第13回ソウル・メディアシティ・ビエンナーレ：交霊会：精霊のテクノロジー」(ソウル市立美術館、2025)、「君の存在は消えない、だから大丈夫」(資生堂ギャラリー、東京、2024)、「At Six and Seven」(Uterior Gallery、ニューヨーク、2022) などがある。

「OPEN SITE 8:『Can't Remember I Forgot You - 忘れたことすら、覚えていない』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2024) 参加。



作品 |《Lost and Found》2024 | Photo by 高橋健治
ポートレート | Photo by YAMAZAKI Tomoyo

大原崇嘉 OHARA Takayoshi

1986年神奈川県生まれ。2012年東京藝術大学大学院映像学科メディア映像専攻修了。現在、東京都を拠点に活動を行う。色彩、空間、視覚認知の考察を基盤に、デジタルメディアを用いた作品を通じて、現代のメディア環境におけるイメージの拡張と相互作用を探究している。古澤龍、柳川智之とともにアーティスト・コレクティブ「ヨフ」としても活動中。

近年の主な展覧会に、「やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品展」(GASBON METABOLISM、山梨、2024)、「芸術未来研究場展」(東京藝術大学大学美術館、東京、2023)、「ICCキッズ・プログラム2023『こんにちは、もうひとりのじぶん』」(NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京、2023) などがある。

「ACT (Artist Contemporary TOKAS) Vol. 6:『メニスル』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2024〔ヨフ〕)、START Box (アーツカウンシル東京、2023)、東京芸術文化創造発信助成 (アーツカウンシル東京、2020〔ヨフ〕) 参加。



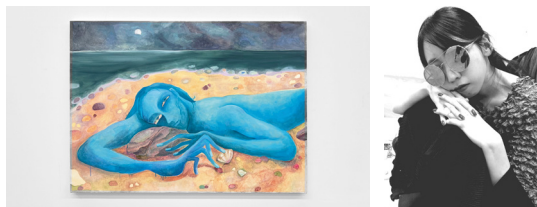
作品 |《Suspensions》2026

谷崎桃子 TANIZAKI Momoko

1991年東京都生まれ。2016年東京造形大学大学院美術研究領域修了。現在、神奈川県・湯河原を拠点に活動を行う。感情を赤裸々に表出するメディアとして絵画と向き合い、ネガティブなものを含むさまざまな体験の受容や回復の力を探求する。日常のささやかな感受性や世俗的な営みの中に潜むエネルギーを掴み、作品として可視化することを目指している。

近年の主な展覧会に、「The Noisy City」(tata bookshop/gallery、東京、2026)、「鳥はどこから来たのだろうか?私は鳥に魅入られ、それに逆らえない」(COPYCENTER GALLERY、東京、2025)、「ミッドナイトドリフター」(soda、京都、2025) などがある。

トーキョーアーツアンドスペース二国間交流事業プログラム派遣(ケベック)(2023)、「TOKAS-Emerging 2019:『lonely girl もう時間』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷)等参加。



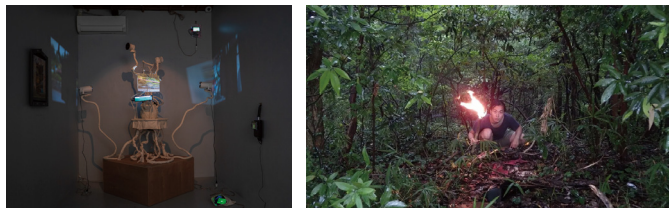
作品|『ミッドナイトドリフター』2025

海野林太郎 UNNO Rintaro

1992年東京都生まれ。2018年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。現在、東京都を拠点に活動を行う。映像、インスタレーション、絵画や立体などのメディアを往来して制作を行う現代美術家。天使やゲーム、無人航空機など多様なモチーフを扱い、メディアと個人・社会の関係を問いながら、人間の信念や特異な世界への眼差し方を探求している。マテリアルショップ「カタルシスの岸辺」運営メンバー。近年は「アートエンジェル」とも名乗っている。

近年の主な展覧会に、「スピリチュアル・フィクションズ」(デカメロン、東京、2025)、「『牢』vol. 2」(Forestlimit、東京、2025)、「奇跡」(Eukaryote、東京、2024) などがある。

「OPEN SITE 2019-2020:『風景の反撃 / 執着的探訪』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷)参加。



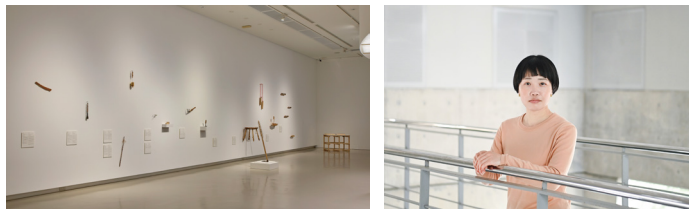
作品|『デバイスとしての天使(往来 - All right!!!)』2025

臼井仁美 USUI Hitomi

1980年東京都生まれ。2010年東京藝術大学大学院美術研究科修了。現在、東京都と神奈川県を拠点に活動を行う。世界を理解するための術としての制作活動をととして、人々の営みと生物の姿、その関係性を探究している。主に木を素材とし、想像上の「木器時代」を手がかりに、人間の自然への眼差しや、生活に溶け込んだ植物との関わり、民俗文化への関心をもとに制作する。

近年の主な展覧会に、「Hiroshima MoCA FIVE 25/26」(広島市現代美術館、2025-2026)、「NEW New Artists / NEW Backbone Artists 2025」(Art Center NEW、神奈川、2025) などがある。

Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP) (アーツカウンシル東京、2024)、二国間交流事業プログラム派遣(ヘルシンキ)(トーキョーアーツアンドスペース、2017)等に参加。



作品|『棚に枝、柱の氣息、ケズリカケの木々』(Hiroshima MoCA FIVE 25/26、広島市現代美術館、2025)

Photo by HANADA Kenichi

ポートレート | Photo by NAKAJIMA Yuji

エントランス 公開制作アーティスト

若手アーティストに創作場所を提供することを目的に、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京が運営する創作活動スペース「START Box お台場」で2024年と2025年にスタジオ制作を行ったアーティストによる公開制作。

尾形凌 OGATA Ryo

2001年東京都生まれ。2026年東京藝術大学先端芸術表現科修士課程在籍。現代における妖怪や不可視の存在たちを作品の主題とし、絵画や立体、アニメーションなどを通じて表現している。加えて妖怪と人間の狭間やあの世とこの世の狭間に存在する世界を描く事でそれらを可視化することを試みている。

近年の主な展覧会に、「てやんでい!べらぼうめ展」(27gallery tokyo、東京、2025)、「涅槃・NIRVANA」(dinner gallery、東京、2023) などがある。

START Box(アーツカウンシル東京、2024、2025)、「START Box EXHIBITION vol.3」(YAU CENTER、東京、2025)参加。



作品 | 《猫仙酒宴図》2025

4. 国際美術展 TOKYO ATLAS 開催概要

- 【名称】 日本語：国際美術展 TOKYO ATLAS
英語：TOKYO ATLAS International Art Exhibition
- 【会期】 2026年10月10日（土）－12月20日（日）[72日間]
会場 ※一部を除き、入場無料予定
[台場エリア] 台場公園、お台場海浜公園
[青海エリア] 青海南ふ頭公園、地下駐車場（青海南ふ頭公園内）、テレコムセンタービル
[天王洲エリア] アイルシながわ、WHAT MUSEUM
- 【主催】 東京都、東京国際文化芸術祭実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団
- 【アーティスティック・ディレクター】
三木あき子、建畠 哲
- 【公式ホームページ】
<https://tokyoatlas.jp/>
※現在はティザーサイトを公開中。2026年6月下旬に本サイトへ移行予定。URLは変更ありません
- 【協賛一覧】 寺田倉庫株式会社、株式会社東京テレポートセンター、株式会社みずほ銀行、株式会社竹中工務店、株式会社 The Chain Museum、東京モノレール株式会社、品川区



- 【助成】 プリティッシュ・カウンシル



報道関係のお問合せ先

国際美術展「TOKYO ATLAS」PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：蓮見（080-4652-1423）、吉川（080-4191-6280）、堀江、俊成

E-mail：tokyo_atlas_pr@ssu.co.jp

オフィシャル素材ダウンロード先：

https://drive.google.com/drive/folders/1Y9snh6Z0aznFFZ9kHGoyBA105dKAcep_